

大和インベスター・リレーションズ 個人投資家向けオンライン会社説明会

2026年7月12日(日)



証券コード:4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

本日の内容

- あすか製薬ホールディングスの強み
- あすか製薬ホールディングスの成長戦略
 - 1. 前中期経営計画の振り返り
 - 2. ASKA VISION 2035
 - 3. 国内医療用医薬品事業
 - 4. 創薬事業
 - 5. グローバル事業
 - 6. アニマルヘルス事業
 - 7. 中期経営計画2028
- サステナビリティ
- 株主還元方針

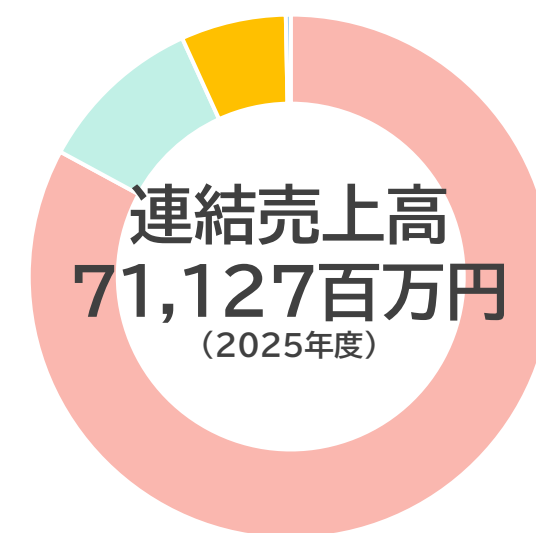
あすか製薬ホールディングスの強み

あすか製薬ホールディングスの概要

商号	あすか製薬ホールディングス株式会社
設立年月日	2021年4月1日
創立年	1920年(帝国社臓器薬研究所)
資本金	11億9,790万円
単元株式数	100株
本社所在地	東京都港区芝浦二丁目5番1号
従業員数(連結)	1,611名※1
グループ会社数※2	連結子会社:5社 持分法適用関連会社:6社
時価総額	834億7,080万円※3
証券コード	4886(東証プライム)



代表取締役社長
山口 惣大



医療用医薬品事業 (あすか製薬)	82.9%
アニマルヘルス事業 (あすかアニマルヘルス)	10.3%
海外事業 (Hataphar)	6.5%
その他事業(検査等) (あすか製薬メディカル)	0.3%

※1 2026年3月31日現在 ※2 2026年6月現在
※3 時価総額は2026年5月11日付終値(2,902円)より算出

あすか製薬ホールディングスの歩み

創立以来100年にわたって内分泌ホルモンの研究で社会課題解決に取り組む



1920年～
製薬企業としての
第一歩を踏み出す



1955年～
株式上場
成長～発展



2005年～
あすか製薬誕生
さらなる発展へ



2021年～
HD体制化
次の100年へ

独創的な発想で次々と ホルモン製剤を発売

国内初となる様々な
ホルモン製剤を発売



ホルモン研究の技術を 活用して事業を展開

医薬品の製品多角化を
進めるとともに、検査事
業、動物用医薬品事業へ
の展開を図る



女性の健康課題解決に寄り添い成長を目指す

時代のニーズにあった医薬品の開発・発売

避妊、月経関連疾患、不妊治療など女性の
幅広いライフステージをサポートする製品を展開

幼少期 思春期 性成熟期 更年期 老年期



社会のニーズに応え多種多様な製品を提供

連結売上高
711億円

1920

1940

1960

1980

2000

2025



あすか製薬ホールディングスグループの強み

成長の源泉

内分泌の研究・開発に長年に
わたり特化し

100年超

多種多様な製品を開発・発売

あすか製薬

産婦人科領域

No.1

産婦人科領域売上No.1

※自社推計:2025年度

あすか製薬

甲状腺領域

No.1

国内甲状腺製品シェア96%

※自社推計:2025年度

あすかアニマルヘルス

製品ラインナップ

飼料添加物
産業動物用医薬品
ペット用医薬品

様々な製品を発売

Hataphar※(ベトナム)

シナジーの創出

グループ間連携の深化

東南アジアで医療基盤を共創

あすか製薬メディカル

分析技術

内因性ホルモン微量分析

非侵襲性検査事業の拡大

あすか製薬ホールディングスの成長戦略



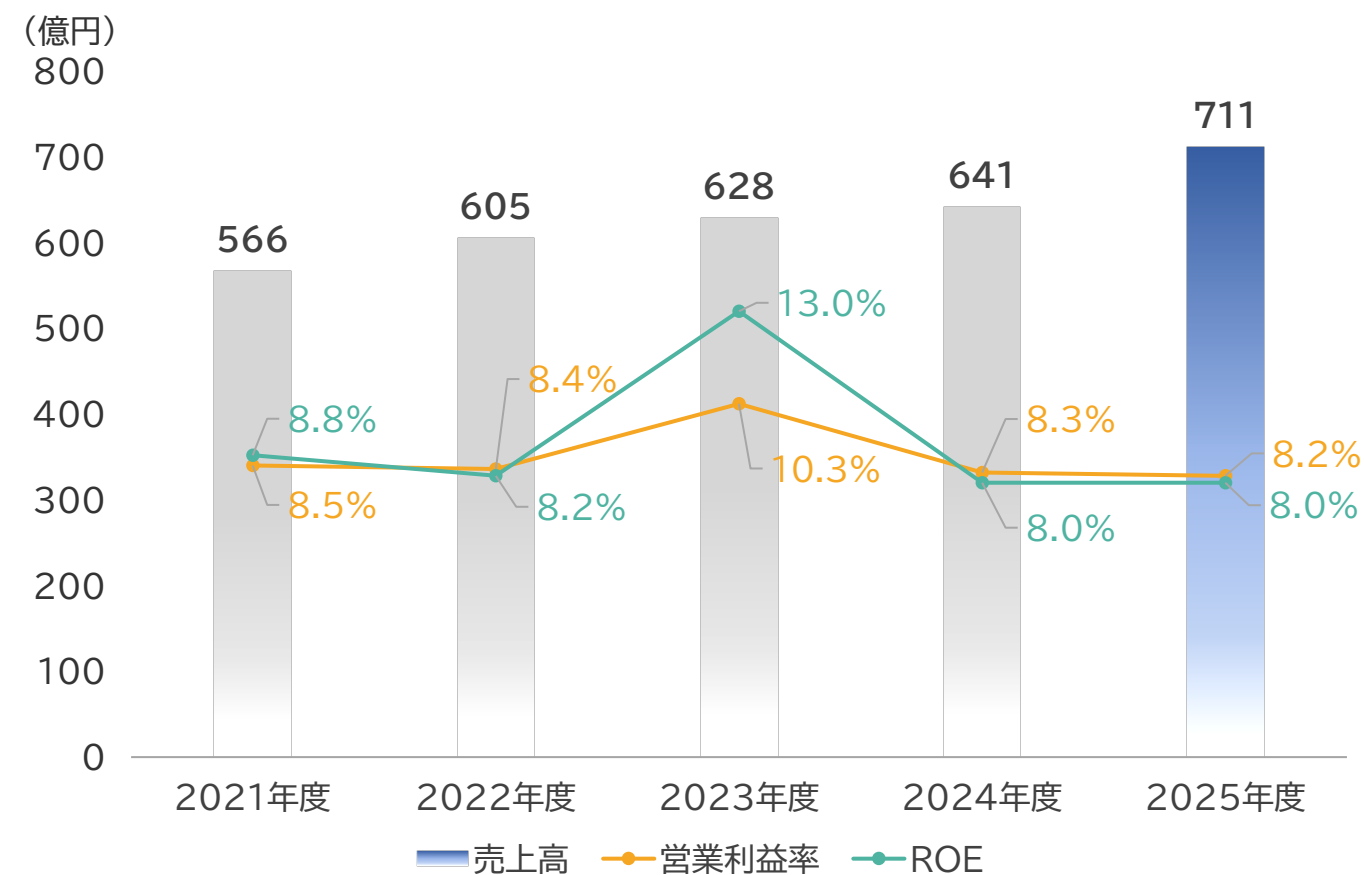
中期経営計画2025の総括

2025年度 数値目標 **「売上高700億円」、「営業利益率8%」、「ROE8%」を達成**

4つのビジョン

1. 医療用医薬品を軸に事業スコープ(領域・地域)を拡大する
2. オープンイノベーション推進により業務革新を実現する
3. 中核となる国内医薬品事業(スペシャリティ領域)で国内トップを確立する
4. 社会から信頼される会社であり続ける

▶ 中期経営計画2025の実績推移



▶ 中期経営計画2025における経営指標

売上高
711億円

目標:700億円

- ▶ 先発品を中心に医療用医薬品事業は堅調に推移
- ▶ 産婦人科領域売上No.1を達成
- ▶ アニマルヘルス事業は売上70億円超を達成
- ▶ Hataphar社連結が売上に寄与

営業利益率
8.2%

目標:8%

- ▶ 製品ミックスの改善による売上総利益の向上
- ▶ 原材料費や調達コストの削減による原価低減
- ▶ 設備投資による生産効率の改善

ROE
8.0%

目標:8%

- ▶ 営業利益率の改善に伴いROEが向上
- ▶ 新たな株主還元方針の導入や戦略的な借入の活用などにより財務レバレッジを最適化
- ▶ 遊休資産や政策保有株式の売却による資本効率の改善

ASKA VISION 2035 ～あすかグループが目指す提供価値～

環境・社会

- ▶女性活躍・社会進出の推進
- ▶食糧危機・国内食料自給率の低下
- ▶環境リスクとサステナブル経営の要請

政治・経済

- ▶少子高齢化に伴う国内市場の縮小
- ▶地政学リスクの高まり
- ▶東南アジアの経済的な発展

医療・製薬

- ▶創薬難易度の上昇
- ▶健康意識の高まり
- ▶標的疾患の複雑化

外部環境の変化
に伴う
社会課題やニーズ

あすかグループが目指す提供価値

女性活躍・社会進出のサポート

性差に由来する健康課題に向き合い、より健やかな社会をリードする企業となる

高度な医療ニーズへの対応

新規モダリティによる創薬研究の推進を通じ、多様なソリューションを探索する

グローバルでのプレゼンス発揮

スペシャリティ領域で価値を創出し、アジアを中心にグローバル市場の医療に貢献する

畜産動物・CA※1への貢献

畜産動物やCAのアニマルヘルスに貢献し、国内食料自給率の改善や動物との暮らしを豊かにする

高まる健康意識への対応

検査・医療機器等による予防・診断・治療・予後管理を通じて、トータルヘルスケアへ貢献する



国内医療用医薬品



創薬



グローバル



アニマルヘルス



検査・アラウンドピル

あすかグループのコア・コンピタンス※2

「専門性の高い人材・組織力」「ステークホルダーからの確かな信頼」「スペシャリティ領域における確固たるプレゼンス」

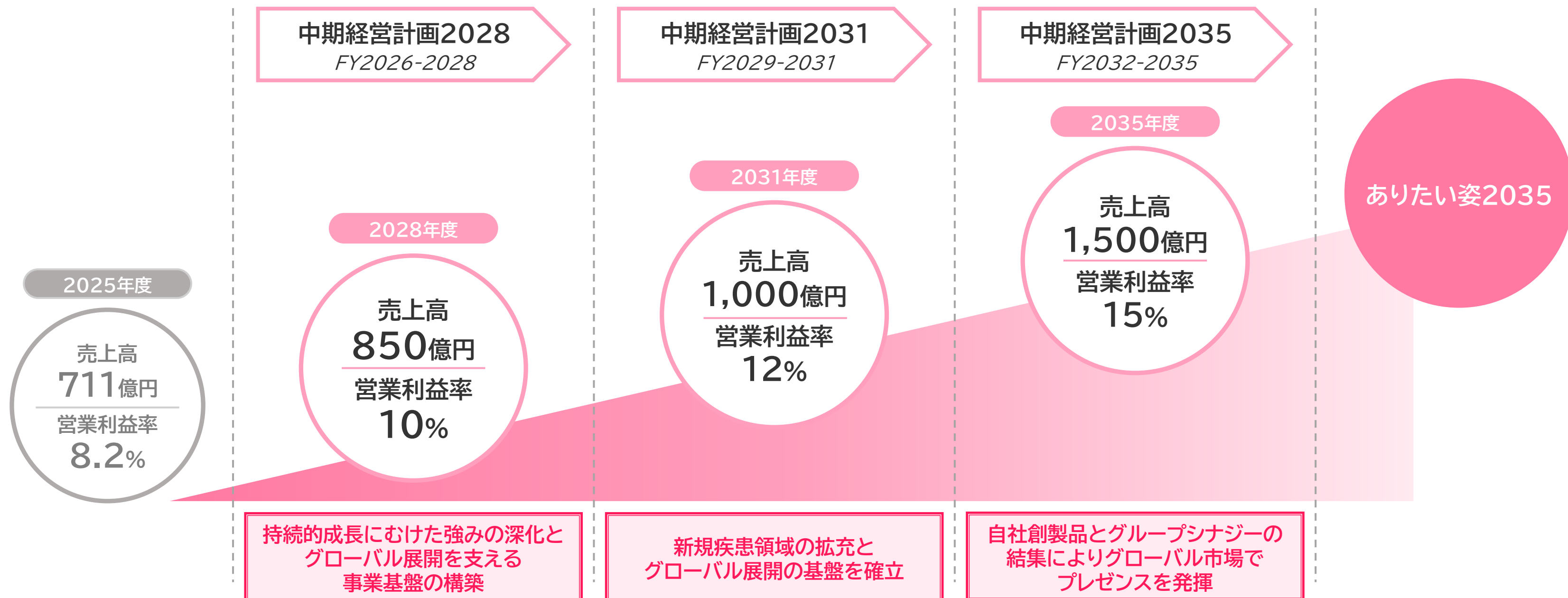
※1 CA(Companion Animal):コンパニオンアニマル、伴侶動物

※2 競争優位の源泉となる自社の中核的な強み



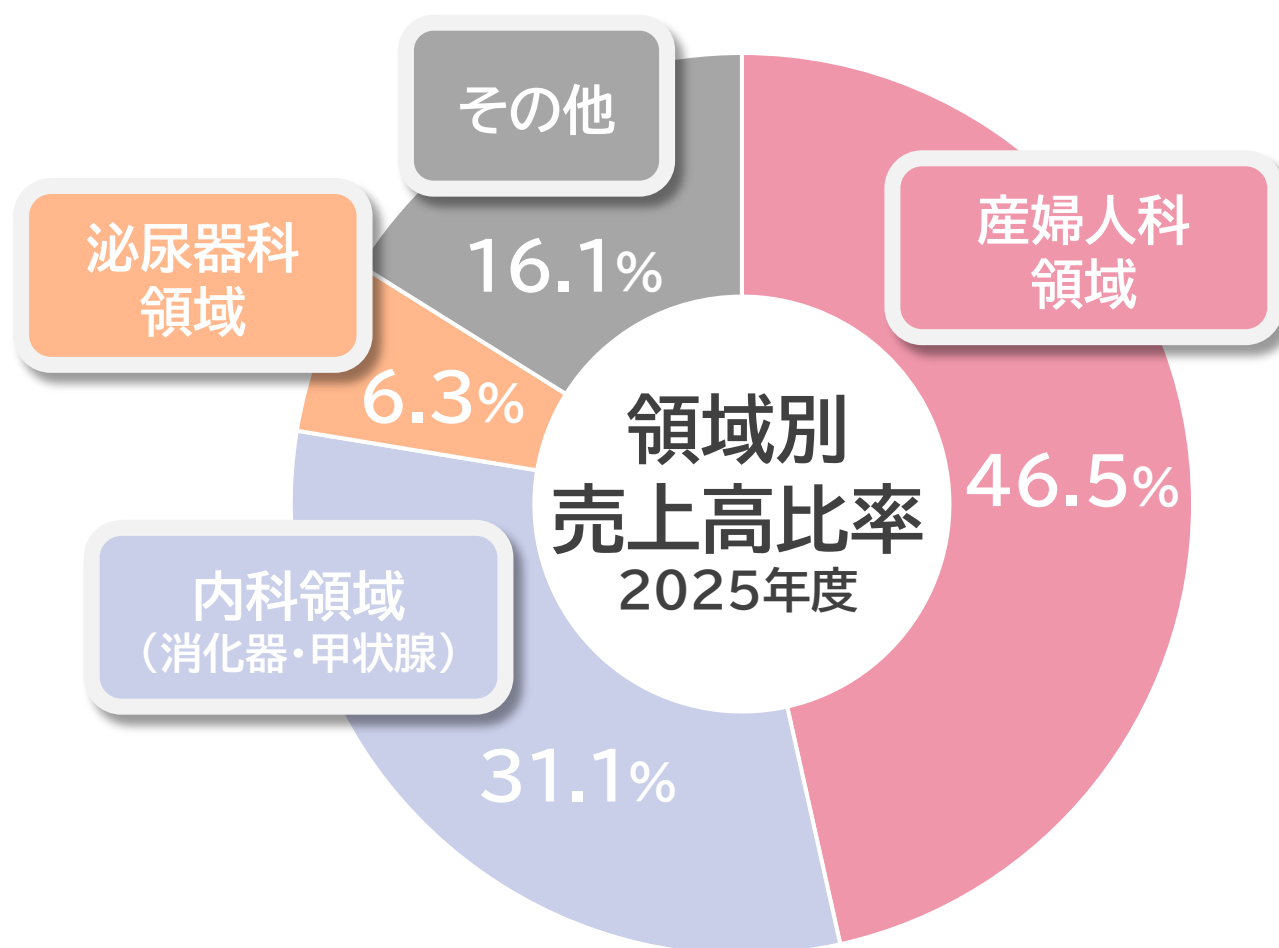
ASKA VISION 2035のマイルストーン

あすか製薬ホールディングスの長期的な目標として「ありたい姿2035」を設定した。急激な事業環境の変化へ柔軟に対応するために中期経営計画の期間を3年とした。「中期経営計画2028」は長期的な目標を達成するために重要な位置付けである。着実な中期経営計画の遂行によって、2028年度目標値および売上高1,000億円を早期に達成する。



あすか製薬株式会社

3つの重点領域において医療用医薬品事業を展開



医療用医薬品とは

主に医師または歯科医師が診断のうえ、患者さん一人ひとりの病気やけがの程度などを判断して処方し、薬剤師が調剤して使用されるくすりのこと

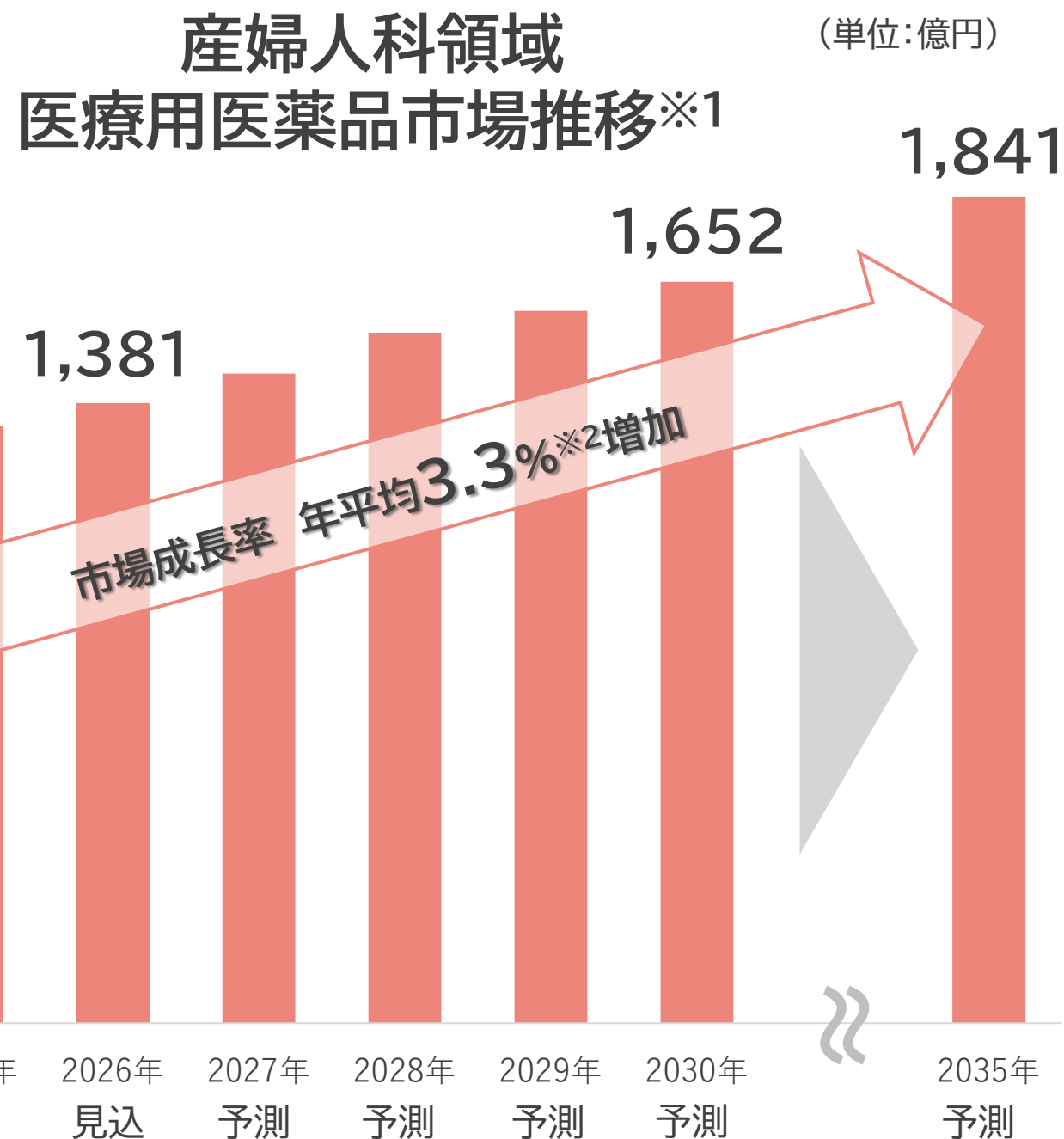
2025年度
売上高

589億円

2028年度
売上高目標

630億円

産婦人科領域の医療用医薬品市場推移



産婦人科市場は持続的な成長を予測

社会情勢と当社の貢献

女性疾患関連

- 女性の社会進出に伴う少子化/晩婚化による患者増
- メディア等での露出回数の増加や女性の健康課題の理解
およびヘルスリテラシーの向上
- Mint+による疾患啓発の推進

避妊関連

- オンライン診療の普及
- 国内初承認のPOP※3(ミニピル)発売
- 国内初緊急避妊薬
スイッチOTC承認

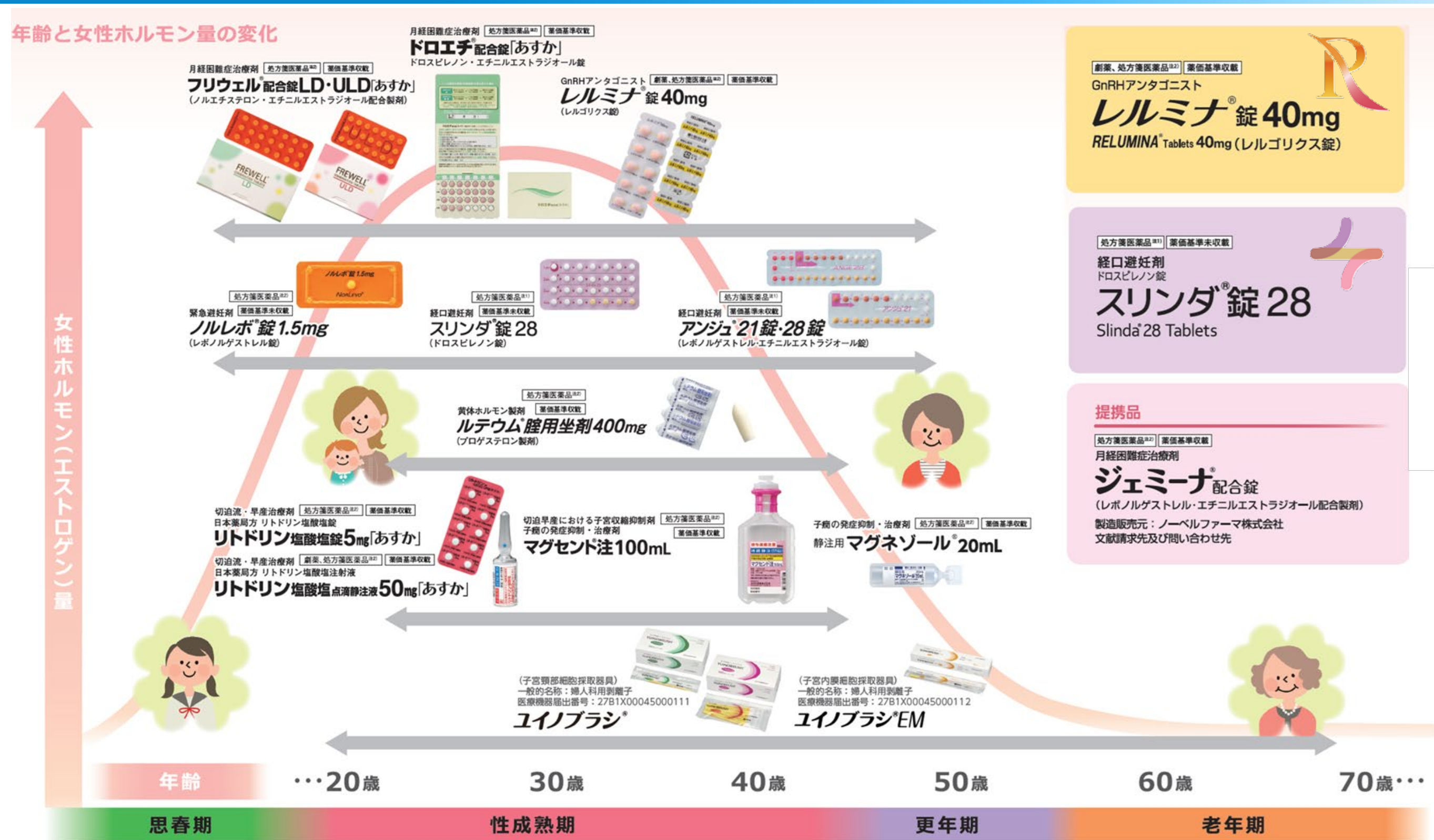
不妊関連

- 不妊症治療の保険適用
- 今後の出産保険適用開始による拡大可能性

※1 株式会社富士経済「避妊・不妊・女性疾患関連市場の最新動向と方向性」(2026年3月) 無断転載禁止
※2 CAGR3.3%(2024年-2035年予測)

※3 POP(Progestin-Only Pill):単剤型プロゲスチン製剤

女性のライフステージ別ホルモン変化と当社製品



女性医療領域の市場拡大 ー月経困難症・子宮筋腫・子宮内膜症ー

女性に多い疾患

特徴

月経困難症

- 若年層では34～94%に発症
- 月経時に強い痛みや不調を伴う
- 日常生活や労働への影響も大きい

子宮筋腫

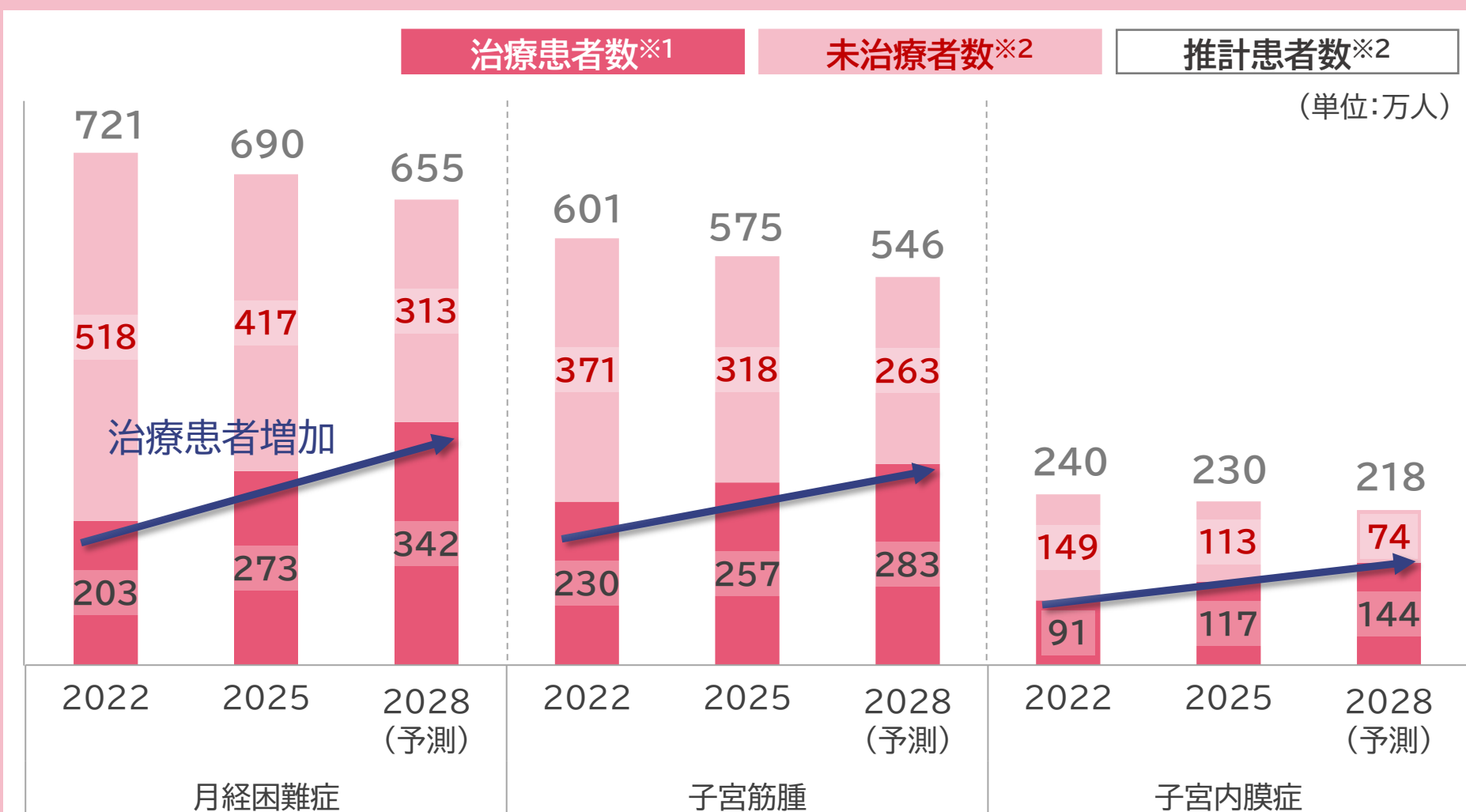
- 20～30代の3～4割にみられる
- 子宮にできる良性腫瘍
- 出血や痛み、不妊症の原因となる

子宮内膜症

- 20～30代女性の約1割にみられる
- 子宮内膜に似た組織が体内で増殖
- 強い痛み、不妊症の原因となる

いずれも未治療の患者が多い

婦人科疾患における患者数の推計



未治療患者が多く、市場は今後も成長が期待される

※1 (出所) 株式会社JMDC調査をもとに推計

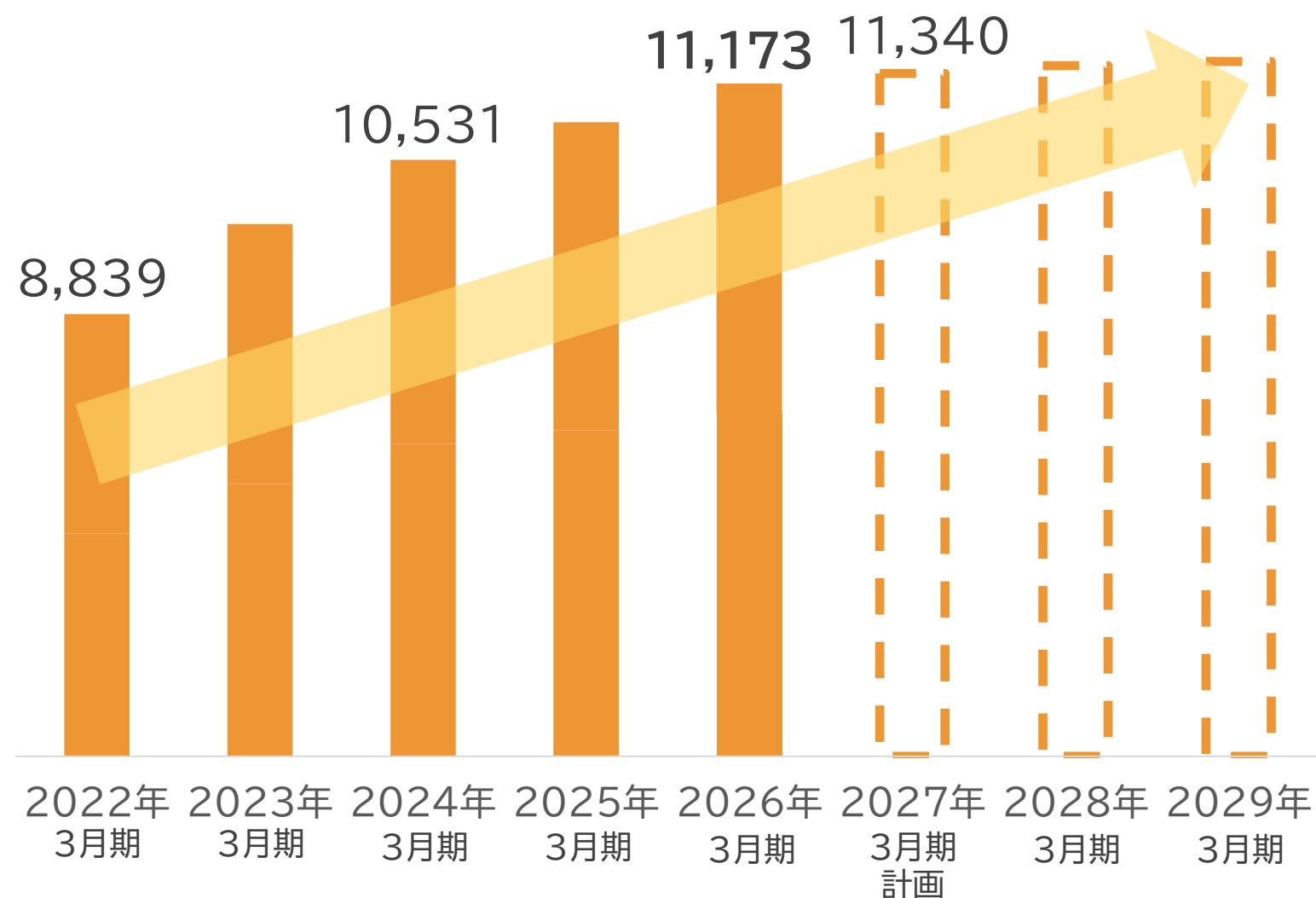
※2 (出所) e-Stat「年齢(5歳階級)、男女別人口」の各年1月1日時点の概算値を基に、15～49歳女性人口を推計し、当社仮説に基づき算出した

市場拡大を背景とした主力製品の成長 – レルミナ®錠40mg・LEP製剤 –

レルミナ®錠40mg 売上推移

(子宮筋腫・子宮内膜症治療剤)

決算ベース(百万円)



患者数の増加と治療の浸透により成長

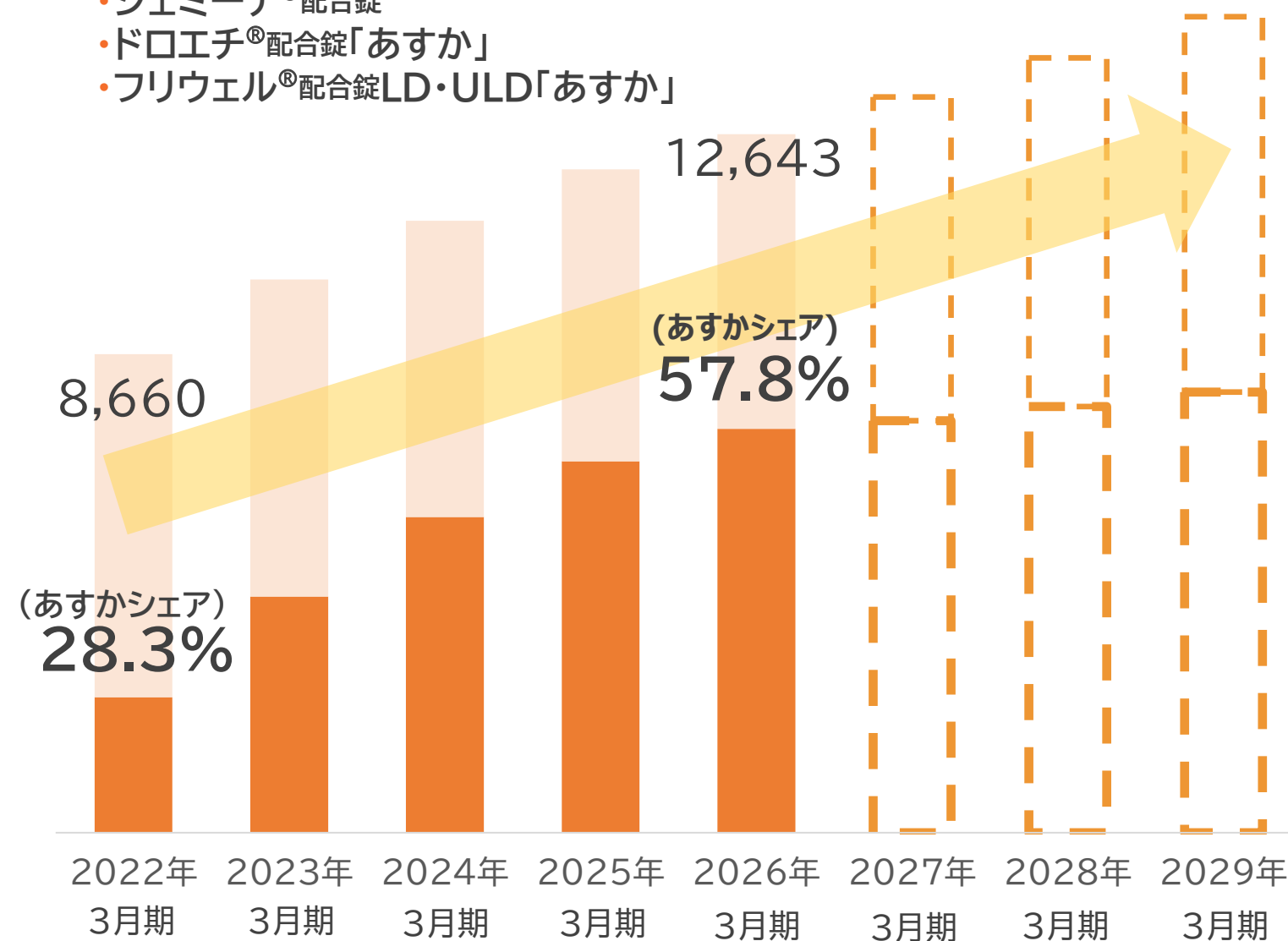
LEP製剤市場推移※1

(月経困難症治療剤)

(単位:千シート)

他社製品
あすか製品

- ・ジェミーナ®配合錠
- ・ドロエチ®配合錠「あすか」
- ・フリウェル®配合錠LD・ULD「あすか」



市場拡大とともにシェアを伸ばす

市場拡大を背景に、当社製品が着実に成長

※1 エンサイスデータに基づく自社集計 無断転載禁止

経口避妊剤の新たな選択肢 – スリンダ®錠28 –

製品特性

日本初※¹の、ドロスピレノンを含む成分とする
プロゲスチンのみの経口避妊剤(POP※²)

臨床上的の特長

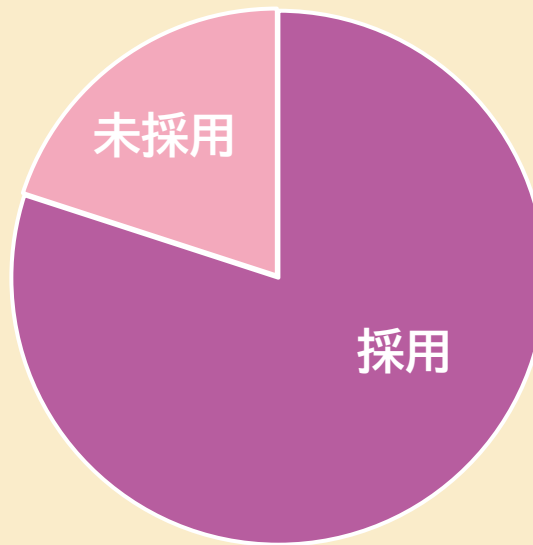
エストロゲン由来の血栓症リスク軽減を期待

活動状況

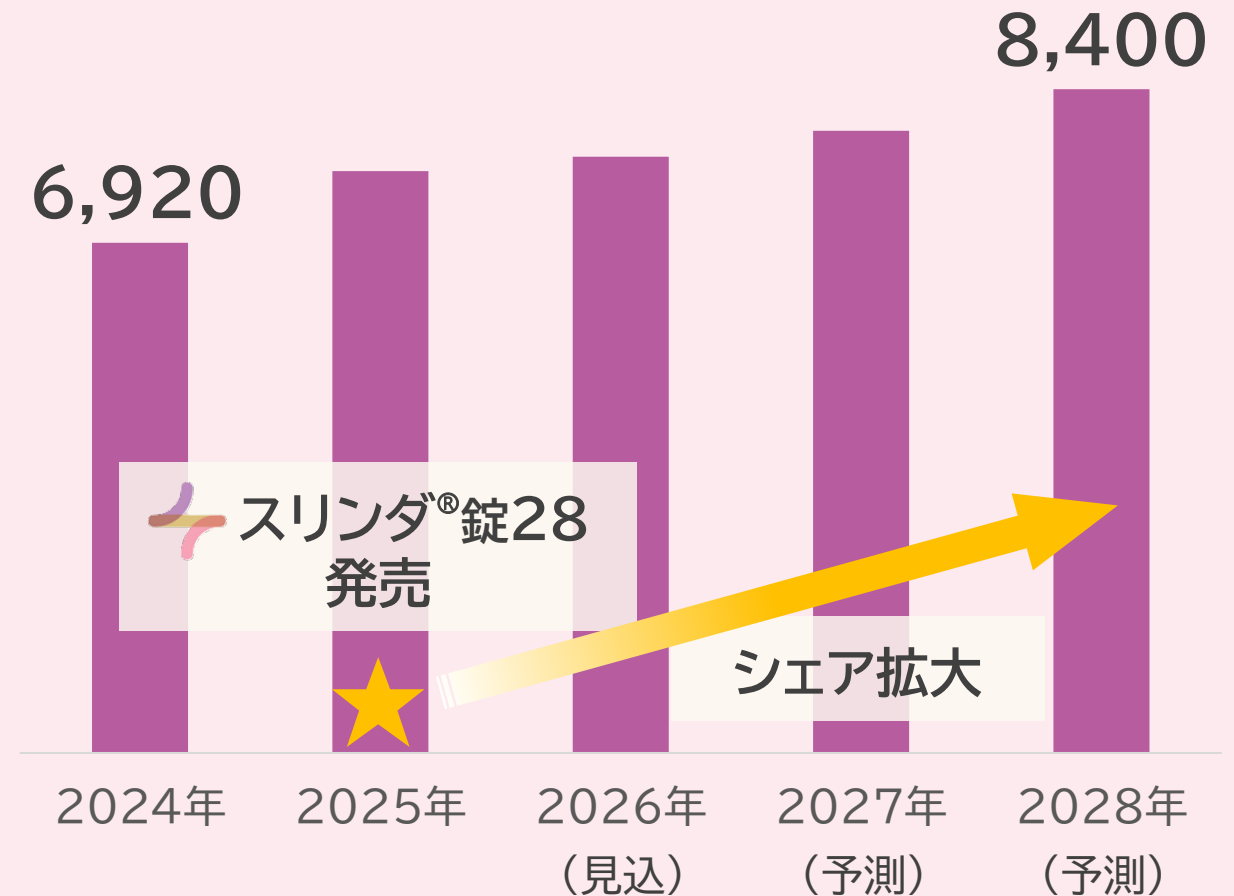
重点施設*カバー率
約80%

*経口避妊剤市場の80%以上を占める施設

2025年6月30日発売以降、
早期の採用拡大

経口避妊薬市場推移※³

(単位:百万円)



血栓症リスクの要因となる年齢・喫煙・肥満等により
従来の経口避妊剤を服用できなかった患者層にも新たな選択肢を提供

※¹ 国内において、ドロスピレノンを含む成分とするプロゲスチン単剤経口避妊剤(POP)として初めて承認された製品

※³ 出典: 株式会社富士経済「避妊・不妊・女性疾患関連市場の最新動向と方向性」(2026年3月) 無断転載禁止

※² POP(Progestin-Only Pill): プロゲスチン単剤の経口避妊薬

女性関連医療への貢献を通じ、持続的な社会価値を創出

緊急避妊薬「ノルレボ®」 スイッチOTC医薬品発売(2026年2月)

レボノルゲストレル製剤(経口剤)

- 世界保健機関(WHO)より「必須医薬品」に指定
- 世界では約90の国と地域で処方箋なしの購入が可能



医療用医薬品「ノルレボ®錠1.5mg」



スイッチOTC医薬品「ノルレボ®」
(販売:第一三共ヘルスケア株式会社)

スイッチOTC化の経緯

緊急避妊薬に関する情勢

2016年

スイッチOTC化の要望書が提出

2023年

緊急避妊薬試験販売開始

2024年6月

あすか製薬が承認申請

2025年10月

製造販売承認取得

【医薬品区分】要指導医薬品

2026年2月 発売

(販売:第一三共ヘルスケア株式会社)

RSウイルスワクチン「アブリスボ®筋注用」 コ・プロモーション開始(2026年4月)

アブリスボについて

- 国内初のRSウイルス母子免疫ワクチン
- 妊婦への接種により、母体に誘導されたRSウイルスに対する中和抗体が胎児へ移行し、出生後の新生児および乳児をRSウイルス感染症から守ることが期待される
- 2026年4月よりファイザー株式会社とのコ・プロモーション開始

- 2026年2月12日に開催された厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会において、小児におけるRSウイルス感染症の予防(定期A類)について、本剤が 2026年4月より定期接種に使用するワクチンとして位置づけられることが了承されている

産婦人科領域のリーディングカンパニーとして
社会的使命を果たす

甲状腺領域のリーディングカンパニー

甲状腺の役割



甲状腺ホルモンは、新陳代謝を促進させ
脈拍数や体温、自律神経などの働きを調整し
エネルギーの消費を一定に保っています

甲状腺疾患の 特徴

症状が多岐にわたるため
他の病気と間違われやすい

～ 間違われやすい疾患 ～

- 更年期障害
- 自律神経失調症、うつ病
- 認知症
- 加齢
- 心臓病
- AGA など

出典：日本内分泌学会ホームページ

甲状腺疾患は女性に多い疾患

■男性
■女性

橋本病(慢性甲状腺炎)

甲状腺ホルモンが少なくなる病気



- 成人女性の
10人に1人
- 成人男性の
40人に1人

バセドウ病

甲状腺ホルモンを過剰に産生する病気



人口1,000人あたり
0.2～3.2人

日本内分泌学会ホームページより当社作図

橋本病・バセドウ病とも気づいていない潜在患者が多数

甲状腺製剤
国内シェア
96%以上※

※自社推計

甲状腺ホルモン製剤



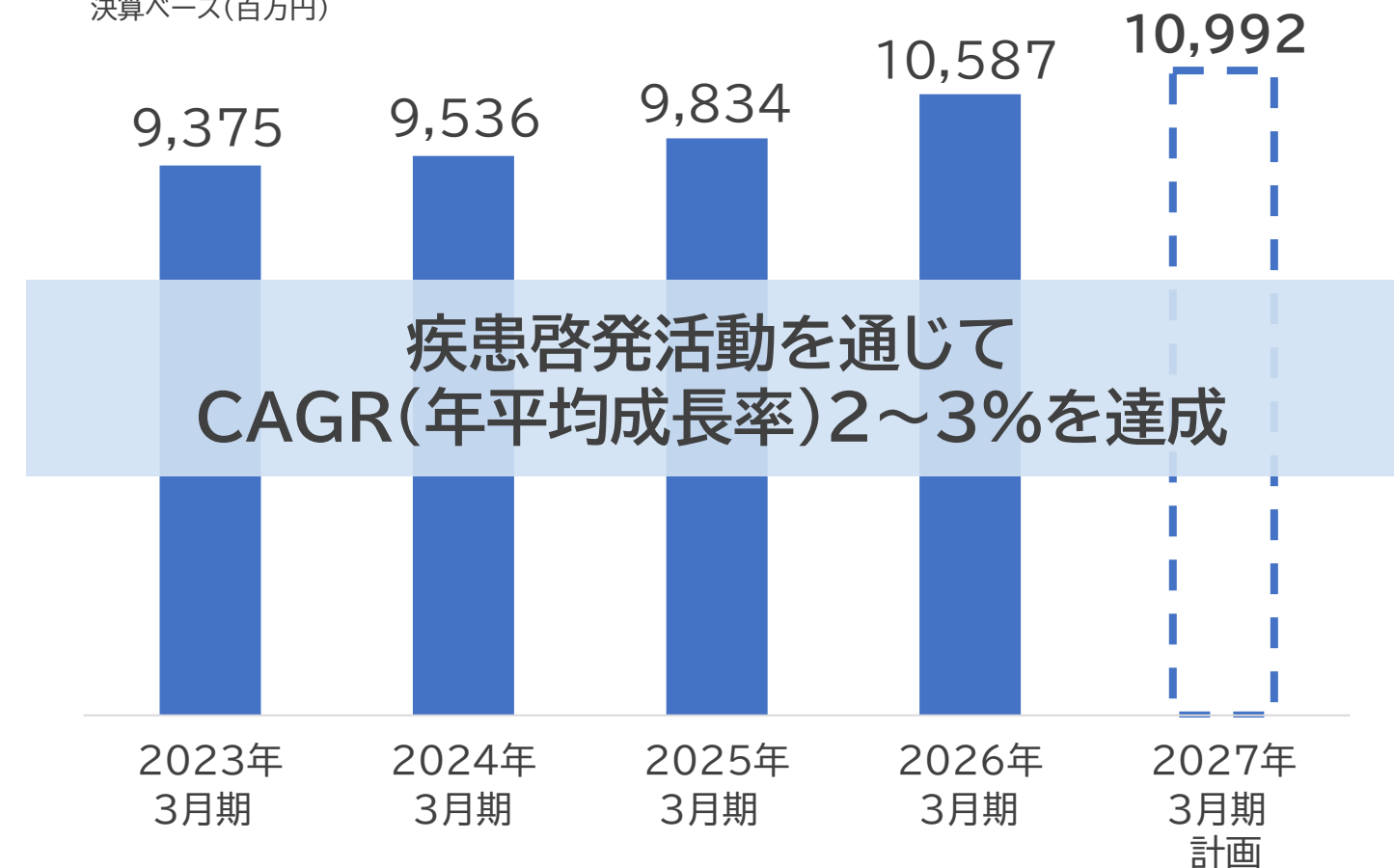
チラーヂン®S錠・散・静注液

抗甲状腺剤

メルカゾール®錠・注
プロパジール®錠

甲状腺疾患治療剤※1の売上推移

決算ベース(百万円)



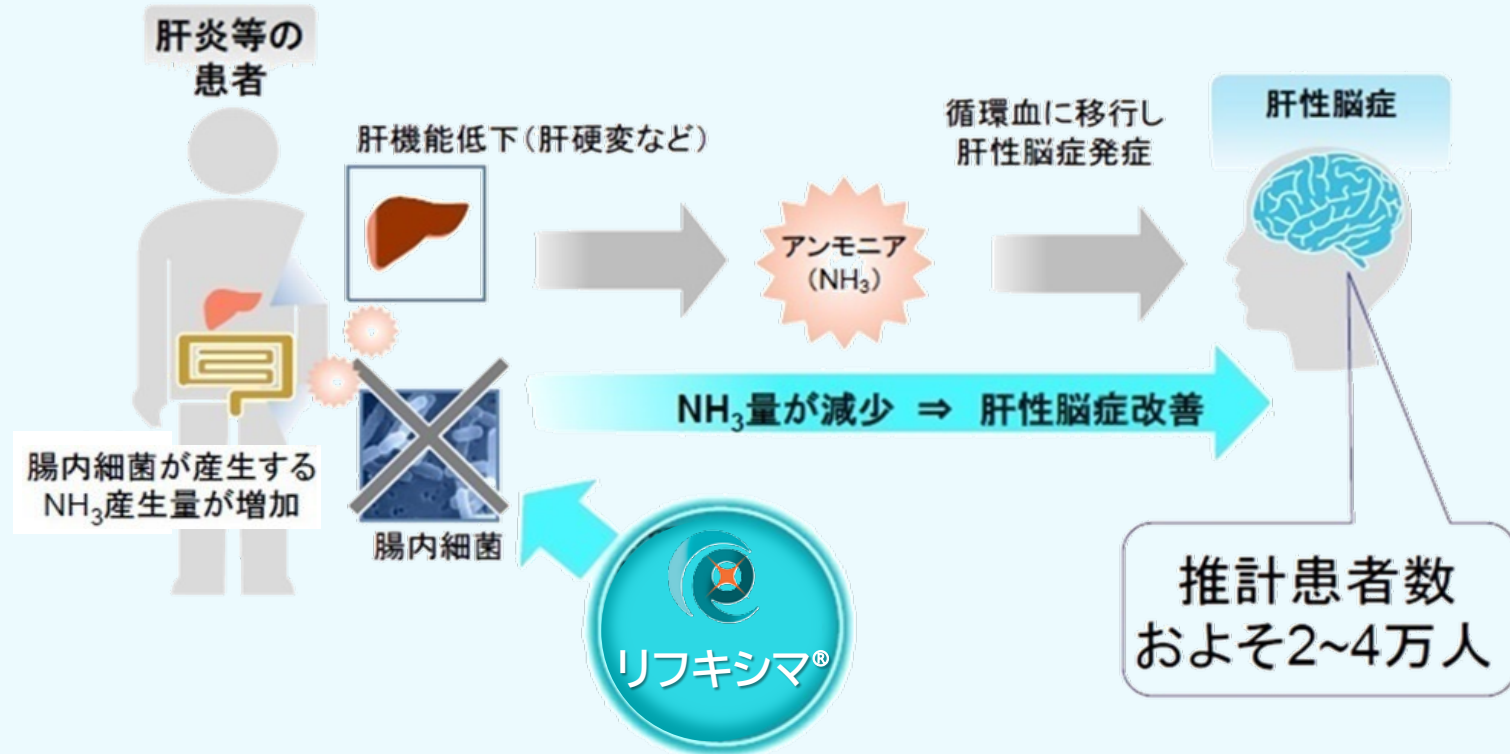
疾患啓発活動を通じて
CAGR(年平均成長率)2～3%を達成

疾患啓発の推進と安定供給の確保

※ チラーヂン®S錠・散・静注液、メルカゾール®錠・注、プロパジール®錠

アンメットメディカルニーズへの貢献 – リフキシマ®錠200mg –

リフキシマ®錠200mg – 肝性脳症治療薬剤 –



- ・厚生労働省が**希少疾病用医薬品**として指定
- ・2016年11月 発売
- ・国内で初めて、**「肝性脳症における高アンモニア血症の改善」**の適応を取得した難吸収性抗菌薬
- ・国内の全ての大学病院で採用
- ・2024年3月 **小児適応追加※**
(※小児に対する用法及び用量の追加に係る一部変更承認取得)

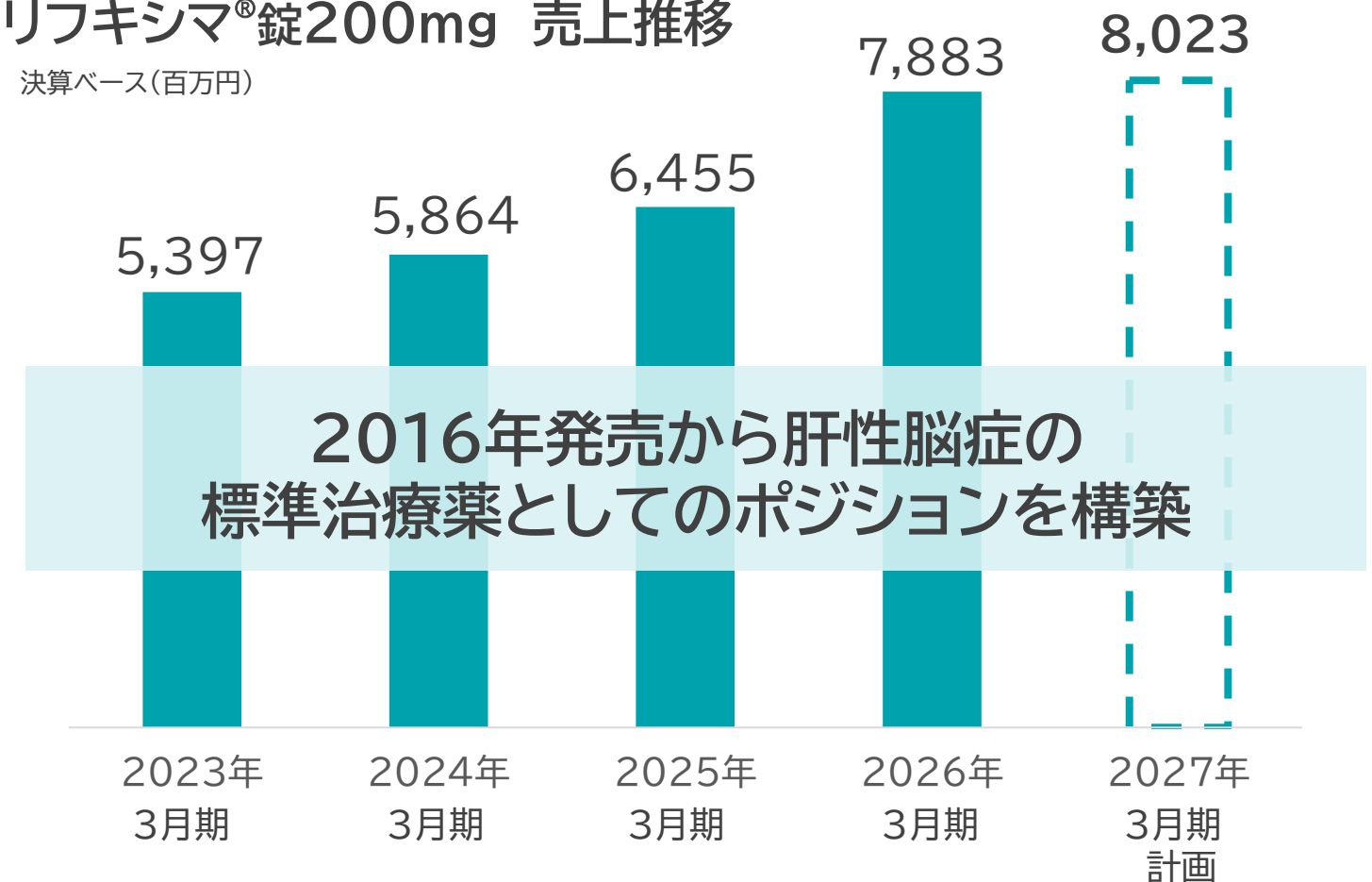
肝硬変診療ガイドライン2020

■リフキシマ®に関する記載※

推奨の強さ **強**
エビデンスレベル **A**

■不顕性肝性脳症に関する記載

不顕性肝性脳症の
治療提案に関する記載より、
疾患の認知向上

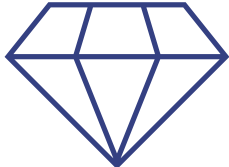
リフキシマ®錠200mg 売上推移
決算ベース(百万円)

疾患認知の向上による成長を期待

※「CQ4-13 肝性脳症に対して腸管非吸収性抗菌薬は有用か？」に対する記載

国内医療用医薬品事業における成長ドライバーと目標数値

中期経営計画2028では、主要製品の価値最大化と新製品の取り組み強化を柱とした成長を目指す。当社が得意とする「産婦人科」、「甲状腺」、「消化器(リフキシマ®)」だけではなく、新たな疾患領域をターゲットとした成長ドライバーの獲得を目指す。

方針	成長ドライバー		2025年度	2028年度
 主要製品の価値最大化	 レルミナ®錠40mg (レルゴリクス製剤)	- 国内初の1日1回経口投与のGnRHアンタゴニスト製剤 - 子宮筋腫および子宮内膜症に有効性を示す	産婦人科領域 (主要製品) 230億円 → 250億円	
	 スリンダ®錠28	- ドロスピレノンを含む国内初のプロゲスチン単剤の経口避妊薬 - エストロゲン由来の血栓症リスク軽減が期待される		
	 LEP	ジェミーナ®、ドロエチ®、フリウェル®の販売を通じて、LEPによる治療の選択肢を幅広く提供		
	 甲状腺製品 (チラーヂン®・メルカゾール® ・プロパジール®)	チラーヂン®、メルカゾール®、プロパジール®の販売を通じて、国内甲状腺製品のシェア95%以上を獲得	スペシャリティ領域 (主要製品) 180億円 → 210億円	
 新製品の取り組み強化	 リフキシマ®錠200mg	- 肝性脳症における高アンモニア血症に有効性を示す - 肝硬変診療ガイドライン2020における強い推奨		
	 新製品	- 開発パイプラインの早期上市および収益化 - 新規事業提携や製品導入による収益拡大	新製品 (コプロ品含む) → +α億円	
	 コ・プロ※品 (アブリスボ®等)	- あすかが得意とする領域でのコ・プロ※を展開していく (アブリスボ®)新生児および乳児のRSウイルス感染症予防が期待される、国内初のRSウイルス母子免疫ワクチン		

※ コプロ(コ・プロモーション): 医薬品等を他の企業と共同で販売すること

開発パイプライン一覧

2026年5月時点

2026/6/22リリース:主要評価項目※を達成
※主要評価項目:治験使用薬投与18-24週後までのPBACスコア[過多月経のスコア]の合計点が10点未満である患者割合(対プラセボ)

…産婦人科 …内科 …泌尿器科

開発番号 / 一般名	領域・効能	研究※1	非臨床※1	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請	承認
AKP-022 / レルゴリクス配合剤	子宮筋腫	LUNA1					第Ⅲ相 実施中	
		LUNA2						
	子宮内膜症	LENA					第Ⅲ相 実施中	
LPRI-CF113 / ドロスピレノン	月経困難症						第Ⅰ/Ⅱ相 実施中	
AKP-SMD106 / 治療用アプリ※2	月経前症候群・月経前不快気分障害 (PMS・PMDD)						特定臨床研究※3実施中	
AKP-009 / ルダテロン酢酸エステル	多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)						開発準備中	
テーマA	産婦人科領域							
MCN-009 / 治療用アプリ※2	過敏性腸症候群(IBS)						検証的治験※4実施中	
テーマB	内科領域							
AKP-009 / ルダテロン酢酸エステル	前立腺肥大症						第Ⅱ相 実施中	
AKP-021 / mPGES-1阻害剤	泌尿器科領域						第Ⅰ相 実施中	
AKP-017 / テストステロン経鼻剤	泌尿器科領域						開発準備中	

※1 研究・非臨床のため詳細は非開示
※3 医療用医薬品第Ⅱ相試験に相当、サスメド(株)との共同開発

※2 薬事上の一般的名称は新設予定のため未定
※4 医療用医薬品第Ⅲ相試験に相当、(株)MICINとの共同開発

先端創薬による新薬の継続的創出

2020年4月

湘南ヘルスイノベーションパークへ移転

— オープンイノベーションを加速し創薬研究を強化 —



製薬企業のみならず、次世代医療、AI、ベンチャーキャピタル、行政など、幅広い業種や規模の産官学が結集している施設。
他社、他業種との協業を進めることで先端創薬による新薬の創出を目指す。

2021年4月

ロンドンオフィスを設立

— グローバルアライアンスの強化 —



海外製薬企業・バイオテック・学術機関との新規提携をさらに加速

アンメットメディカルニーズの高いスペシャリティ領域における革新的新薬への挑戦

あすか製薬は、長年培ってきたノウハウと創薬技術を活かし、創薬基盤をさらに強化するためのドライバーを導入している。産婦人科、内科、泌尿器科の各領域を重点ターゲットとし、グローバル展開を見据えた創薬を推進することで、「世界の女性のQOL向上への貢献」「革新的新薬の創出」「アンメットニーズの解決」を実現していく。

あすか製薬の創薬プロセス

創薬力強化のドライバー



イオンチャネル
創薬技術の強化

オープンイノベーションの
加速

新規モダリティへの
挑戦

あすか製薬の創薬基盤

創薬技術



難易度の高い疾患動物
モデルの作製技術



組織学的解析
ホルモン変動評価



患者サンプルからのター
ゲットID、オルガノイド

蓄積されてきたノウハウ

- 疾患ナレッジの蓄積
- 動物モデルの構築技術
- 患者サンプルに基づくトランスレーショナル研究
- 真のアンメットニーズの把握
- KOLとの密な連携

ターゲット疾患

産婦人科

- 子宮内膜症・骨盤痛
- 多嚢胞性卵巣症候群
- その他産婦人科領域疾患

内科

- 消化器内科疾患
- その他内科領域疾患

泌尿器科

- 前立腺肥大症
- その他泌尿器科領域疾患

グローバル展開

世界の女性の
QOL向上に貢献

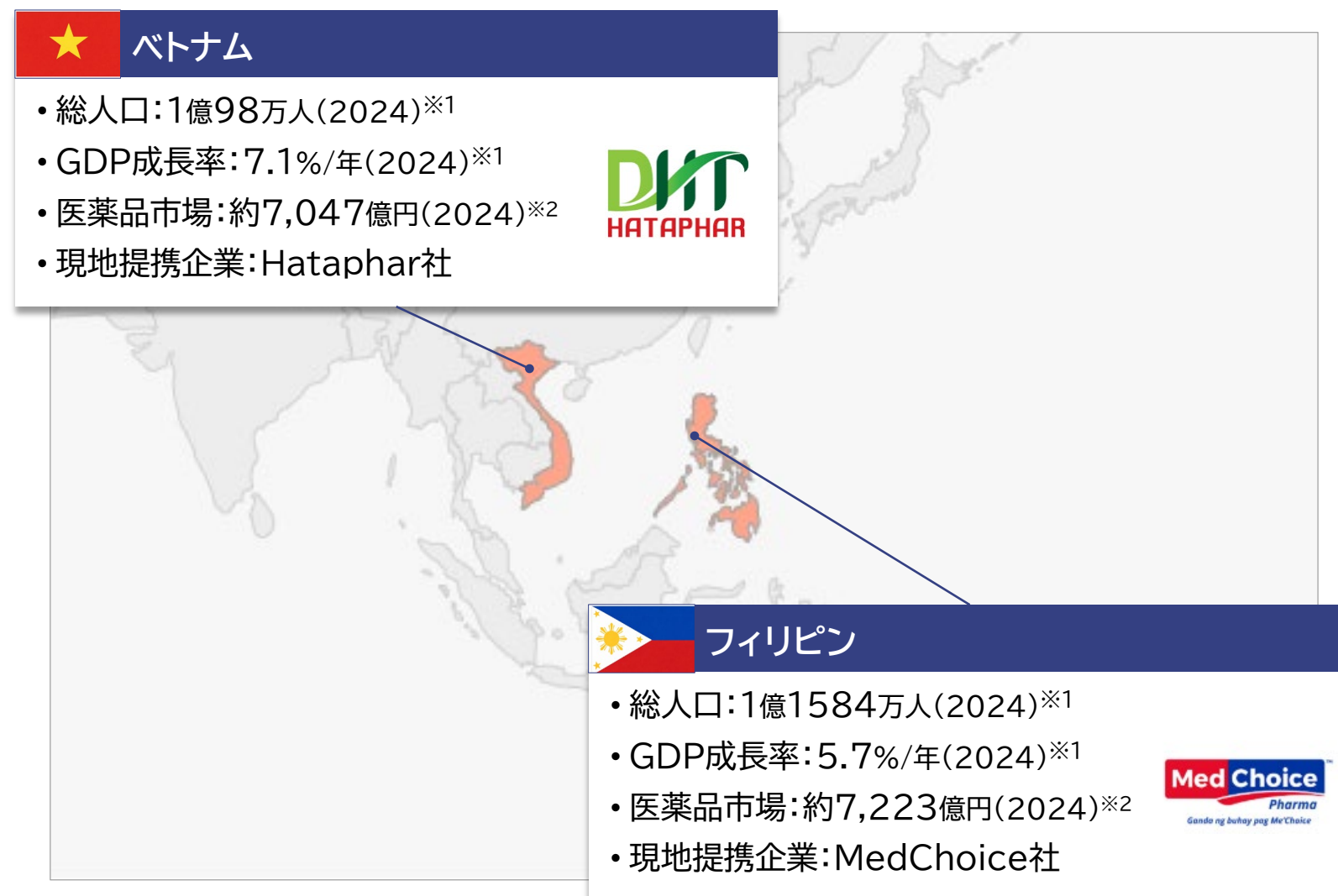
革新的新薬の
グローバル導出

アンメットニーズの
解決

東南アジア市場と現地提携企業

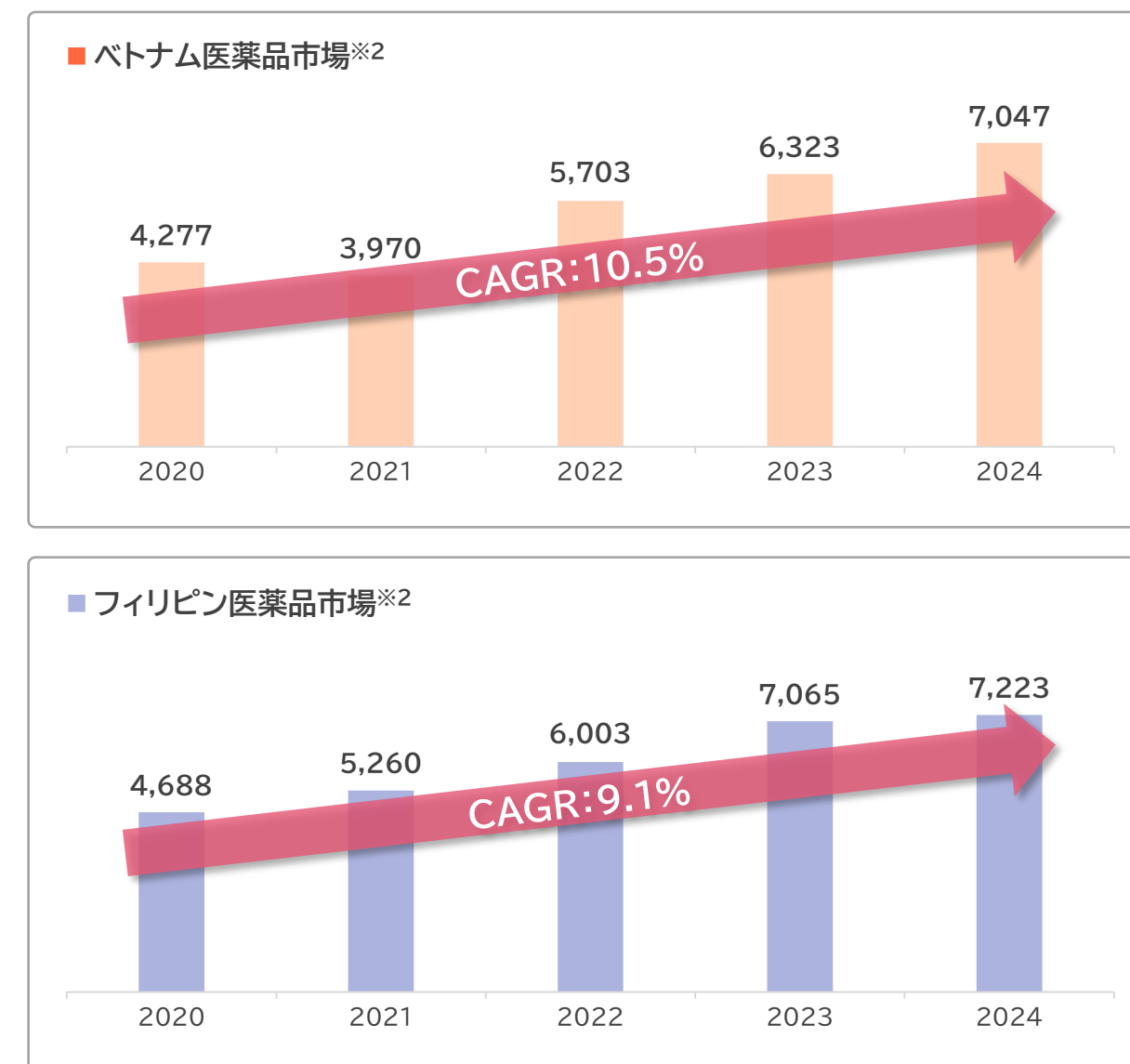
ベトナムおよびフィリピンにおいては先発医薬品市場の拡大がみられるものの、後発医薬品が市場の大半を占めている。一方で、両国ともに高齡化の進展が見られ、今後は日本と同様に医療ニーズの高度化・多様化が進むとともに、品質や安定供給を重視する市場構造への変化が想定される。Hataphar社、MedChoice社と提携し、東南アジアにおける事業基盤の構築を目指す。

▶ ベトナム・フィリピンにおける現地提携企業



▶ 東南アジアにおける医薬品市場の推移

(単位:億円)



※1 (出所) WORLD BANK GROUP

※2 Copyright © 2026 IQVIA. IQVIA Analytics Link (2020~2024年、CAGR:2019-2024年)をもとに自社分析 無断転載禁止

海外事業の展開

持分法適用関連会社であるベトナムHataphar社を2025年2月に連結子会社化 フィリピンMedChoice社と連携し東南アジア展開を加速

Step1: Hataphar社連結子会社化(短期)

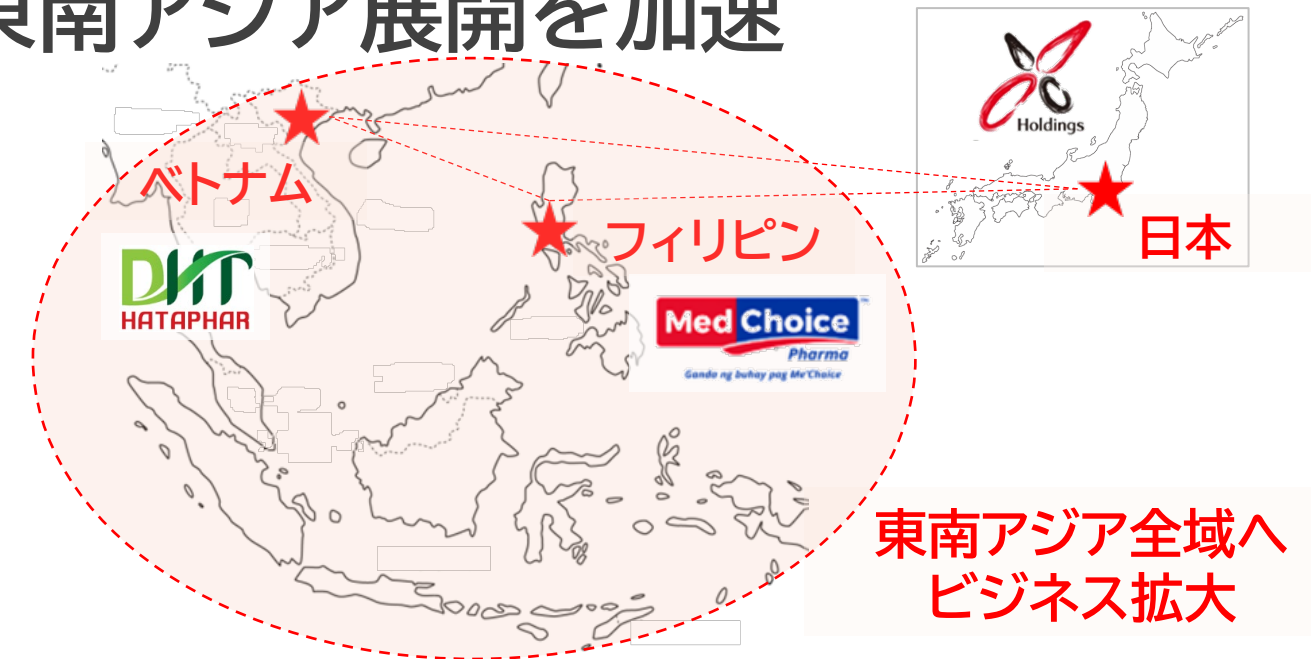
- ・ 新工場のPIC/S GMP承認申請(申請済)
- ・ あすか製品のHataphar社ポートフォリオへの取り込み

Step2: 高収益体制確保と東南アジアへの展望(中期)

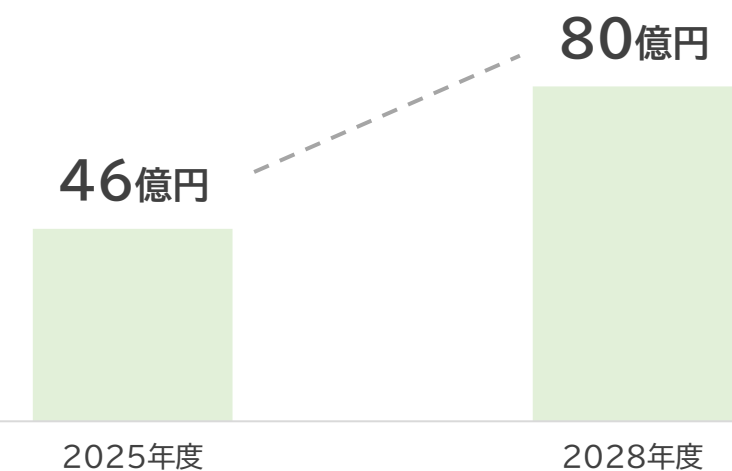
- ・ PIC/S GMP適合の新工場稼働と製品展開
- ・ あすか製品・東南アジア市場向け製品の生産
- ・ MedChoice社との連携によるフィリピン市場での販売展開

Step3: 東南アジアでの事業拡大(中長期)

- ・ 利益率の高いスペシャリティ製品へシフト
- ・ 東南アジア市場向けビジネスの拡大



グローバル事業 2028年度 –売上高– 目標



高収益体制を確立し、東南アジア全域への拡大を目指す

あすかアニマルヘルス株式会社

コンパニオンアニマル(CA)用医薬品の開発を推進

コンパニオンアニマル分野での取り組み

チロブロック®錠（適応症：猫の甲状腺機能亢進症）



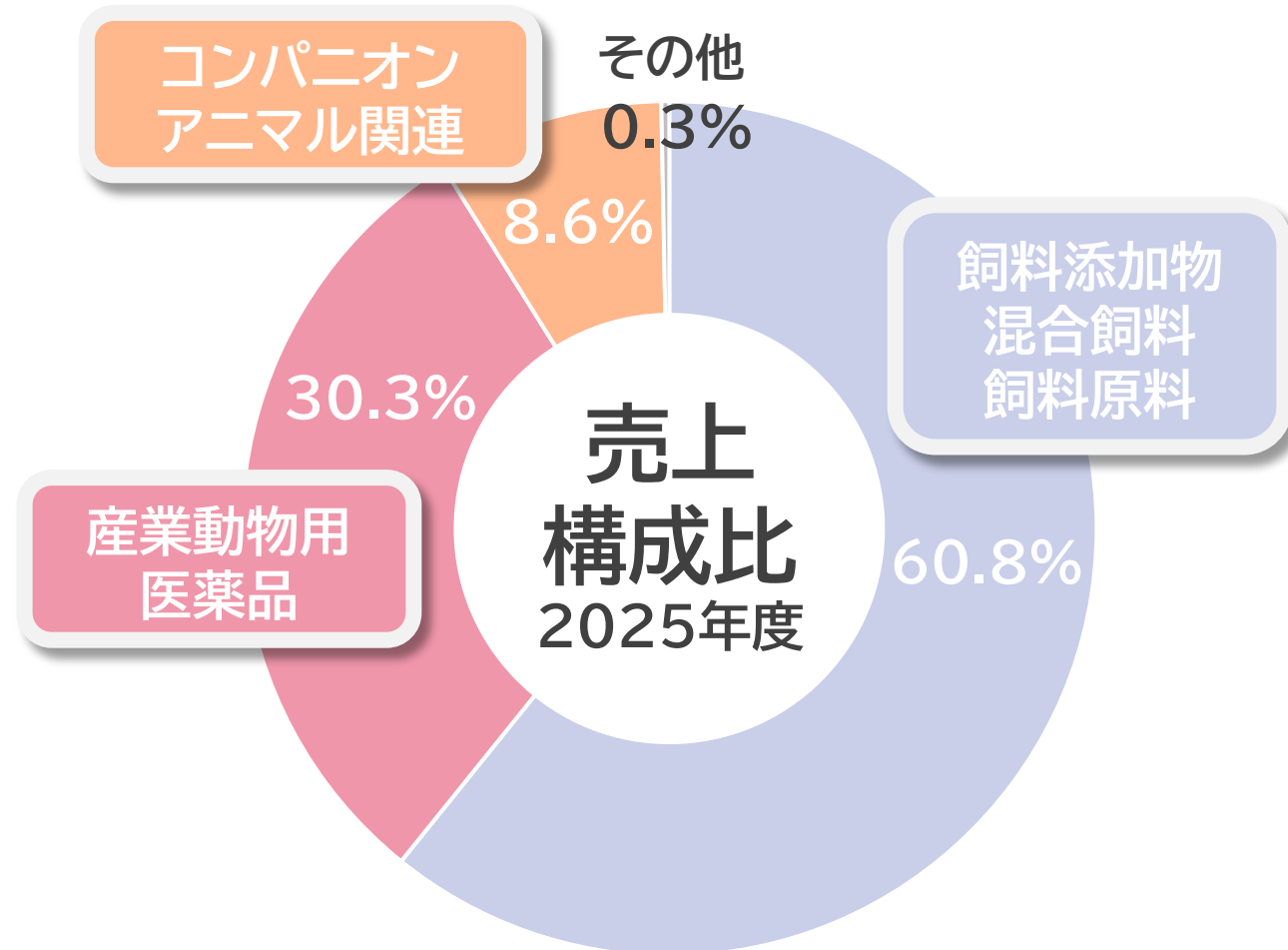
- 国内で初めて承認された猫の甲状腺機能亢進症治療剤
- あすか製薬の医療用医薬品から転用して開発
- 小型錠で猫に優しい製剤設計

トリロスタン®錠

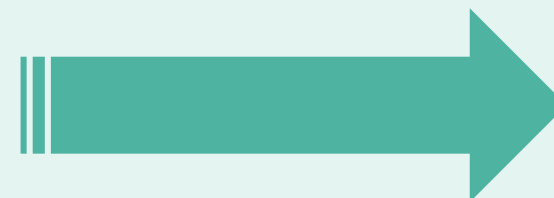
（適応症：犬の副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）に伴う諸症状の改善）



- 飲みやすい錠剤
- 小型犬に対応した製剤設計

2025年度
売上高

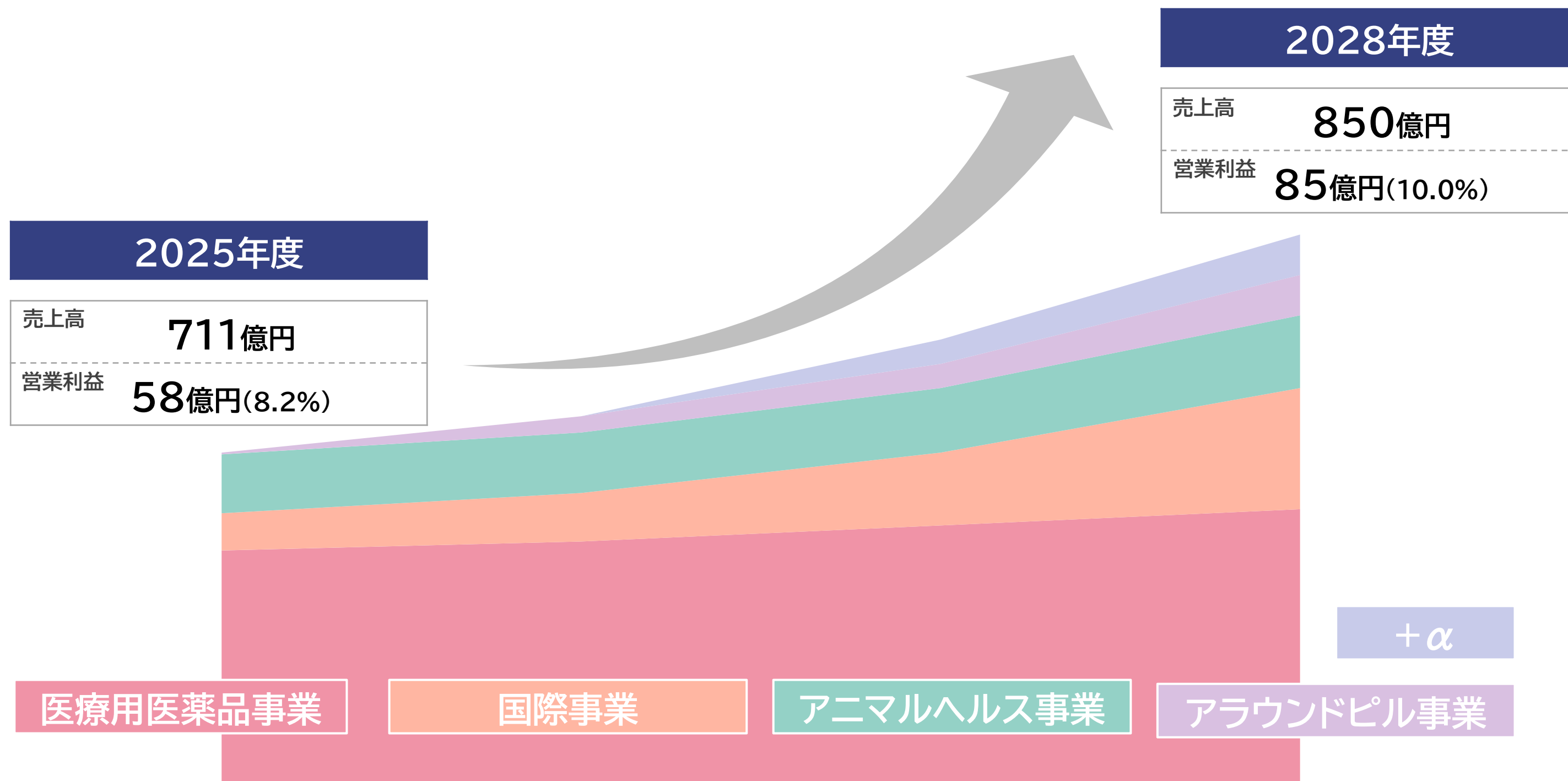
73億円

2028年度
売上高目標

90億円

中期経営計画2028における数値目標

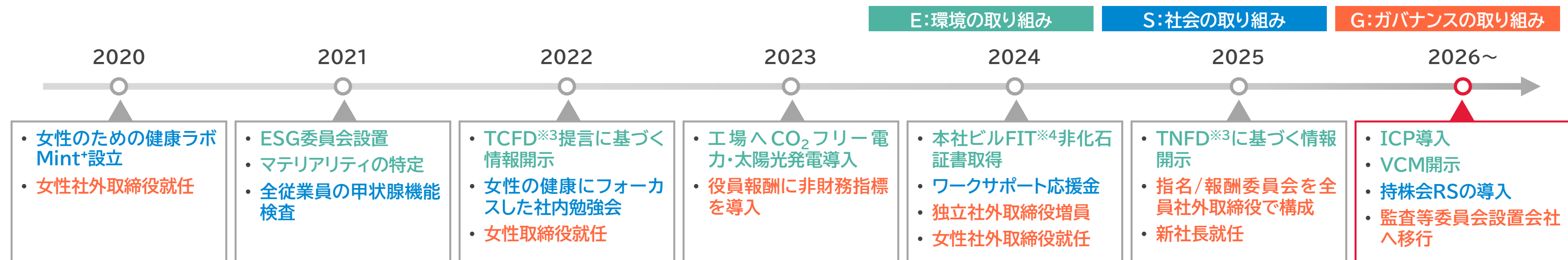
2025年度の売上高実績は711億円であった。中期経営計画2028の最終年度における売上高目標値は850億円である。



サステナビリティ

ESG経営の取り組み

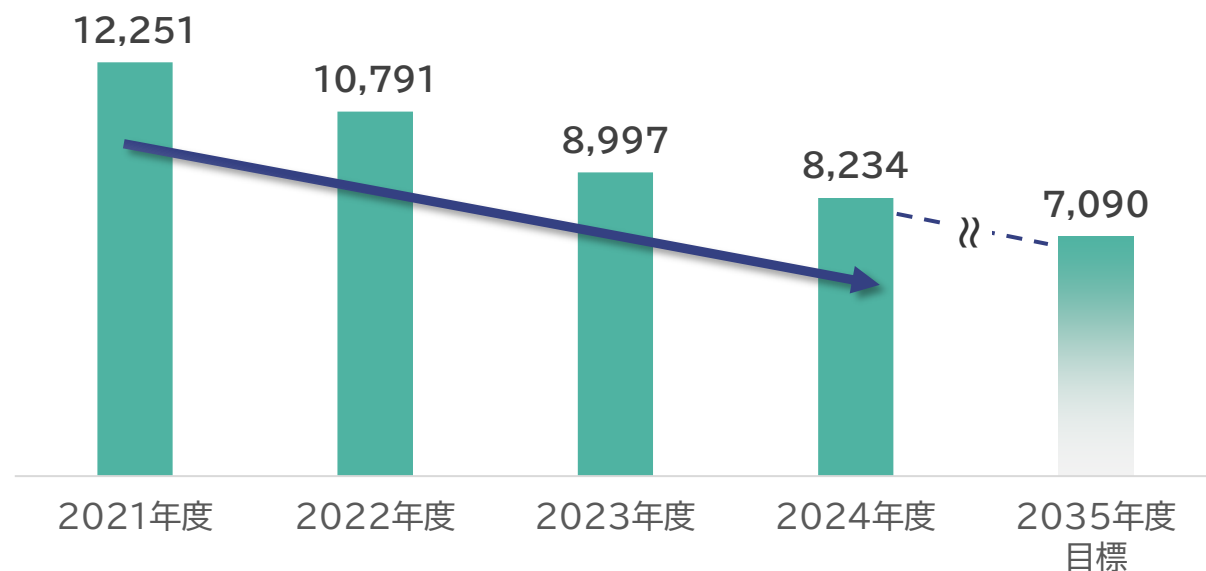
2020年度よりESG経営に着手し、2021年度にはESG委員会を立ち上げた。これにより、CO₂排出量の削減に取り組むとともに、2025年度には女性役員比率30%を達成し、女性管理職比率の向上も進展した。今後はICP※¹を投資判断や経営判断に反映させ、VCM※²を通じて「機会」や「リスク」を精査し、競争優位の源泉や改善点を経営判断に活用していく。



CO₂排出量(環境の取り組み)

30年度目標の46%削減(13年度比)は2023年度に前倒しで達成した
新たな目標として35年度に60%削減を目標とする

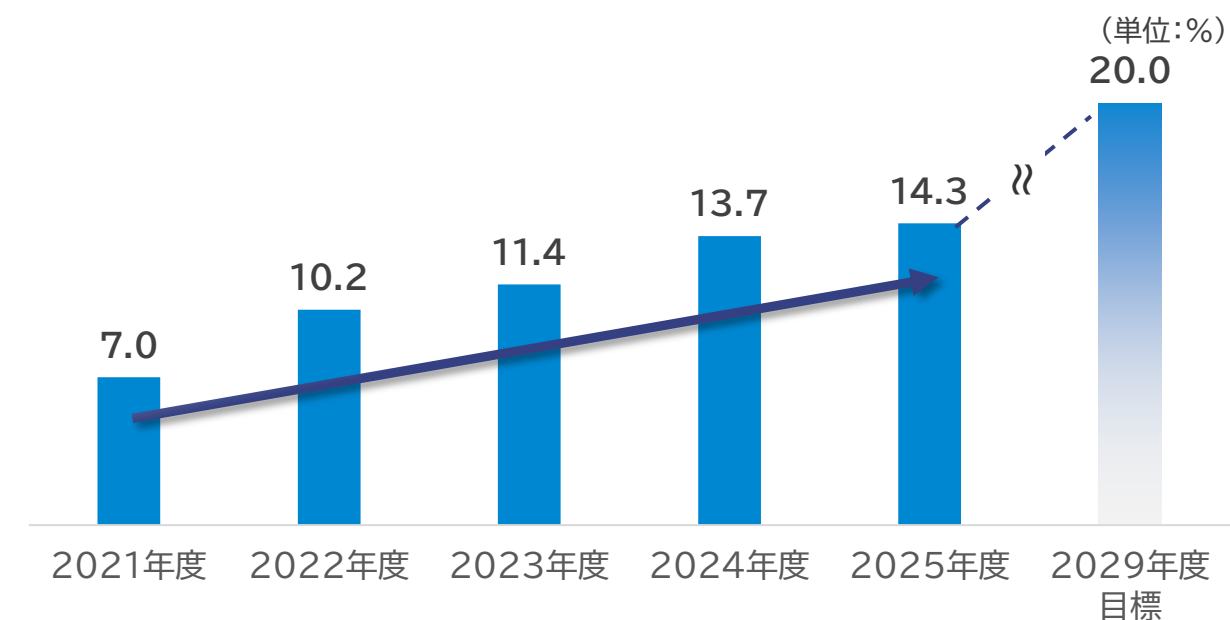
(単位:t)



女性管理職比率(社会の取り組み)

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画として、29年度に20%を目標とする

(単位:%)



※1 ICP(Internal Carbon Pricing):仮想的に炭素に価格をつけて、意思決定に反映する仕組み
 ※3 TCFD・TNFD:気候変動および自然資本・生物多様性に関する情報開示フレームワーク

※2 VCM(Value Chain Mapping):価値が生まれる流れを、上流から下流まで見える化すること
 ※4 FIT(Feed-in Tariff):固定価格買取制度

「女性のための健康ラボ Mint+」の取り組み

女性に寄り添った情報を発信し、女性の健康を応援する活動を展開しています



創立100周年を機に2020年より運営開始



女性のための健康ラボ Mint+

—— キーメッセージ ——

知ることは、自分を守ること。

医師監修のもと、正確な情報を発信し
女性に関するヘルスリテラシー向上に貢献



Mint+ Hug

子育てをしている方々向けウェブサイト



妊娠・出産・乳幼児の 健康にフォーカス

- ママのためのコラム
 - 新生児・乳幼児のためのコラム
 - パパのためのコラム
- ※随時更新中

Mint+ teens

ティーンズ世代向けウェブサイト



フェムナレッジ

企業向け動画研修サービス



外部から得られた評価

持続的な社会の発展に向けた取り組みが様々な外部機関より評価されている。引き続きESG経営の推進、サステナビリティに
取り組み、さらなる企業価値の向上と社会的価値の創出を目指す。

▶ ESG/サステナビリティ



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



▶ 人的資本/健康経営



東京で輝く、
自分らしく。

東京都女性活躍推進大賞 優秀賞



Nextなでしこ



健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門



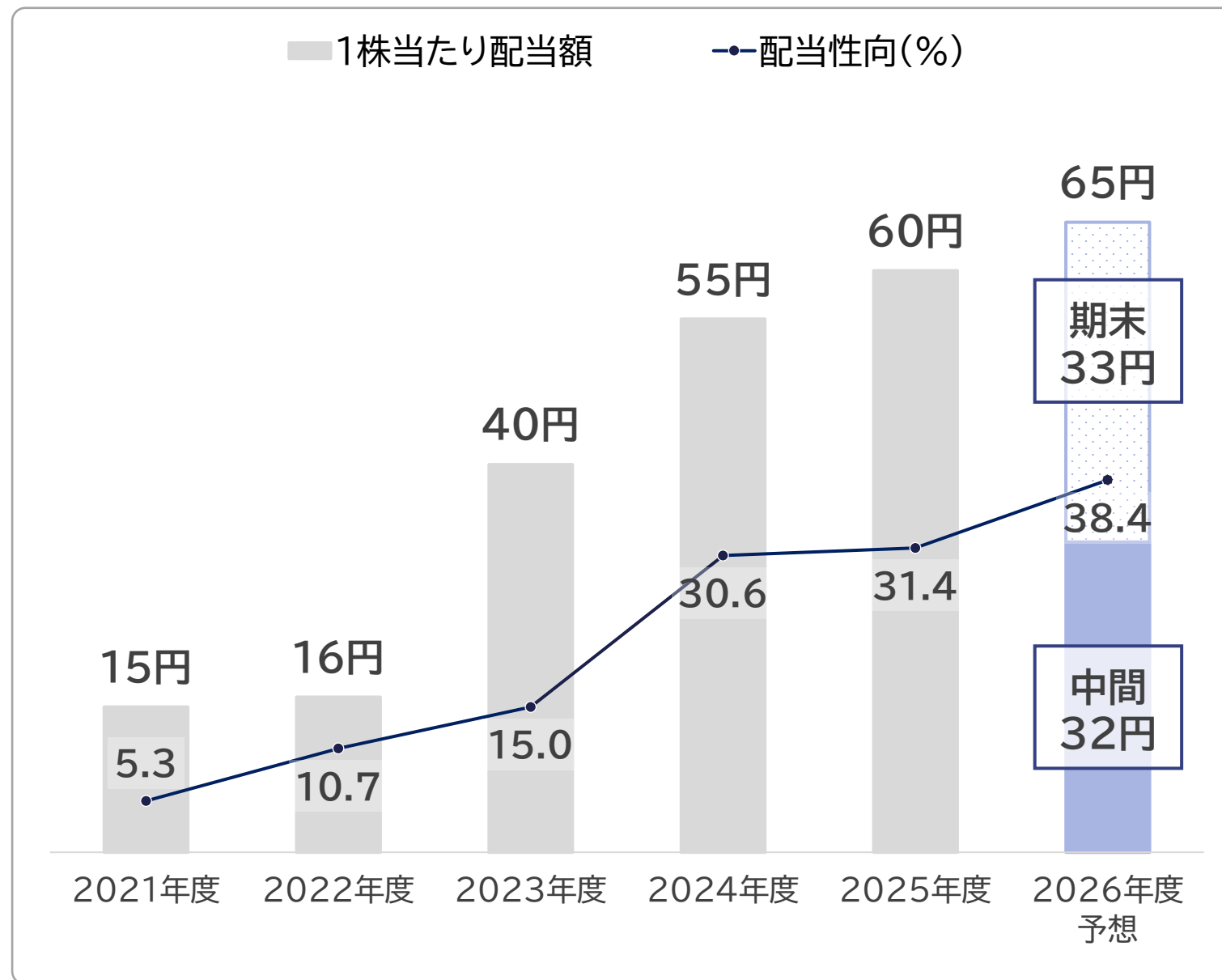
▶ IR/コミュニケーション



株主還元方針

株主還元の強化 ― 総還元性向40%を目安とする累進配当導入 ―

▶ 1株当たりの配当額推移



▶ 配当方針の変更

変更前

【～2026年3月期】

業績連動利益配分として、

- ✓ 連結配当性向30%を目安とする
- ✓ 1株当たり配当金の下限は年間30円とする
- ✓ 業績に連動した利益還元を行いつつ、安定的な配当を維持する

変更後

【2027年3月期～】

業績連動利益配分として、

- ✓ 総還元性向40%を目安に株主還元を行い、利益成長に応じた配当水準の向上を目指す
- ✓ 株主の皆様への利益還元の姿勢を明確にするため、累進配当(特別配当を除く)を導入し、原則として減配を行わない方針とすることで、安定的な配当の維持に努める

あすか製薬ホールディングスグループ
コーポレートメッセージ

あすも、 みらいも、 すこやかに

株主・投資家様向け情報のご案内

当社ホームページおよび各種SNSにて情報発信しておりますので是非ご覧ください



<https://www.aska-pharma-hd.co.jp/invest/>

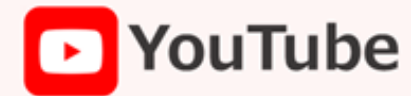
IRメール配信サービス

当社のIRに関する最新情報をメールでお届けします。

 IRメール配信サービス登録



<https://www.aska-pharma-hd.co.jp/invest/mail.html>



@ASKA_Pharmaceutical_Holdings



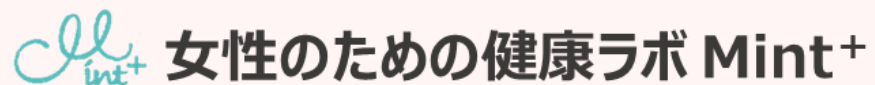
<https://www.youtube.com/channel/UCrQHYk0JSKuE25fAzdfQ43g>



@aska_pharma_hd



https://twitter.com/aska_pharma_hd



<https://www.aska-pharma.co.jp/mint/>



@aska_pharma2005



https://www.instagram.com/aska_pharma2005/

重要な注意

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



証券コード:4886
あすか製薬ホールディングス株式会社

お問い合わせ先

グループ経営企画部

e-mail: kouhou@aska-pharma.co.jp